

## 6月の災害教訓カレンダー

日	災害	教訓
1	1965年 三井山野炭鉱ガス爆発事故 噴出したガスが火源に触れ爆発。237名死亡。うち212名が一酸化炭素中毒で死亡した。	
2	1905年 芸予地震 広島・呉・松山付近で大被害、死者11名。	
3	1991年 雲仙普賢岳火砕流災害 前年11/17に198年ぶりに噴火。翌年3月に再び噴火が始まり、この日最大規模の大火砕流が水無川流域を襲った。死者43名。行方不明者3名。	
4	1953年 昭和28年台風2号 九州～中部地方で死者不明者54名。	
5		
6	1987年 老人ホーム松寿園火災 東京都東村山市の老人ホーム松寿園で火災、死者17名。	特別養護老人ホームにスプリンクラー設備の設置を義務づけられる規模が6,000㎡から1,000㎡に強化された。
7	1941年 幌内ダム決壊事故 集中豪雨により、大量の濁流が流木を乗せてダムに押し寄せ決壊。死者60名。	
8	1959年 硫黄島噴火 噴煙が3000m、活動約1か月続き、全島民86人が島外移住。	
9		
10		
11	2000年 宇都宮宝石店放火殺人事件 死者6名。	
12	1978年 宮城県沖地震 M7.4、仙台などで震度5。死者28名。新興開発地に被害が集中。	ブロック塀倒壊で死者達数。1981年の建築基準法の改正
13	2008年 岩手宮城内陸地震 M7.2、栗原市で計測震度6強、死者行方不明者23名。	世界最大の4022galを観測、建物被害が少なく土砂災害が多い
14	1972年 日本航空ニューデリー墜落事故 日本の航空会社が外国で起こした初めての墜落事故。地上で護岸工事をしていた労働者合わせ、死者93名。	日本航空ではこの事故を受け2年後の74年2月までに未装備のDC-8-30機に電波高度計を装備し、全保有機に低高度警報器を装着した。
15	1896年 明治三陸地震津波 M8.5、地震の揺れによる被害は無かったが、地震より津波で死者は2万名を超えている。	春以来の地震の中でも小さいほう、地震を気にとめなかった。
16	1964年 新潟地震 M7.5、仙台などで震度5。死者26名。津波の被害もあった。	2年後の1966年5月、地震保険法及び関連法を成立
17	1974年 桜島噴火(6/17～) 土石流、鉄砲水など二次災害により、死者8名。	
18		
19	1694年 出羽北部津軽地震 M7.0。野代では、地震直後に火災が起こり、わずか10戸が損傷を免れたのみであった。死者429名。	
20	1949年 デラ台風(6/20～22) 4048隻の船舶が被害を受け、愛媛県宇和海付近で漁船849隻が沈没、234名の死亡・行方不明者を出した。全体の被害、死者252名、行方不明者216名。	梅雨時に台風は来ないという伝承が災いしたという。
21		
22	1952年 ダイナ台風(6/22～24) 長崎県波佐見町で山崩れが発生、12名が死亡。全国で65名死亡、70名行方不明。	
23	1999年 平成11年梅雨前線豪雨(6/23～7/3) 被災県は29府県に上り、38名死亡。JR博多駅周辺では、地下街の総浸水面積が5万平方mに達し、水没死亡事故を起こしてしまった。	翌年6月水防法が改正され、地下空間における浸水対策に関する事項が追加された。
24	1969年 昭和44年梅雨前線豪雨(6/24～7/11) 鹿児島県では652か所のがけ崩れが発生。34都府県被災地全体の被害は、81名死亡、8名行方不明。	
25	2004年 平成16年台風6号、前線 全国で死者、行方不明者7名。	
26	2000年 三宅島の群発地震 7.8に噴火が開始。大量の火山ガスが発生。	
27	1935年 昭和10年西日本梅雨前線豪雨(6/27～30) 西日本を中心に豪雨となった。全体の被害死者、行方不明者156名。	この災害を経て主な河川では近代的な工法による抜本的な治水工事が始まったという。
28	1948年 福井地震 M7.1、体感震度6、市内の建物のほとんどが倒壊。死者3769名。	鉄筋コンクリート造の耐震規定などが見直され、新たな「建築基準法」として制定された。
29	1962年 十勝岳噴火 死者4名。	
30	1959年 宮森小学校米軍機墜落事故 沖縄県石川市宮森に米軍機が墜落、死者17名、校舎など31棟全焼。	